



Early Childhood Education and Care



vol.01
ECEC
ニュース

新しい保育・幼児教育をめざして

ECEC研究活動をスタートします！

ECECニュースによせて

現在、日本の保育の現場は大きな変革の波の真ただ中にあります。認定こども園という形でいったん収束したように見える幼保一元化の議論は、いまだに「教育」と「養護」の間で揺れ動いています。ECECはOECDが最初に使い始めた言葉ですが、この短い言葉の中には教育 (education) と養護 (care) が含まれています。現在、世界中の保育、幼児教育関係者は、この時期の子どもに必要なのは、educationとcareの両方であるという共通認識に立っているのです。そしてその両者の兼ね合いをどのようにすることが子どもにとって一番いいのか、熱心に探求をしています。つまり日本で議論の真ただ中にあるこの課題は決して日本特有のものではなく、世界でも熱く議論されているのです。

先日、世界のECEC研究と実践の先導役でもあるOMEP(フランス語の頭文字で、日本語訳「世界幼児教育機構」)の総会に参加し、まさにECECが世界標準の合言葉になっていることを知りました。

このECECニュースが、日本のECEC研究と実践に寄与する貴重な情報交換の場になることを願っています。



神原 洋一

CRN所長。医学博士。お茶の水女子大学大学院教授。1951年生まれ。専門は小児神経学、発達障害。

保育と幼児教育を新しい「かたち」にしよう

男女雇用機会均等法の施行以降、女性の積極的な社会進出に伴い、女性の働き方は多様化し、子どもたちの生活スタイルも多様になってきました。そのような子どもたちを預かる保育・幼児教育の現場では、色々な問題が山のように起こり、現在十分機能しているとは言い難い状況にあります。

この状況を打破するには、保育・幼児教育を新しい「かたち」にしていく必要があるように思います。改善すべき問題は色々ありますが、一番重要なのは、これまでそれぞれの立場においてそれぞれの役割を果たしてきた保育現場・幼児教育現場が、互いに歩み寄り、子どもたちのために力をあわせて「保育の質を高めること」について考えていくことではないでしょうか。保育に教育学の理念と実践を取り入れて、「保育教育学」と呼んで体系づける必要があると考えています。

ECECということばは、まさにそのことを表しているように思われます。どうか、子どもに関わるすべての方が、ECECをよりよいものにして、現代社会で機能する新しい「かたち」にさせていただきたいと思えます。

小林 登



CRN名誉所長。医学博士。東京大学名誉教授。国立小児病院名誉院長。1927年生まれ。

ECECとは？

ECECとは、Early Childhood Education and Careの略語で、直訳すると「人生初期の教育とケア」を意味します。ECECの提供と質に関して世界的に関心が高まる中、日本の保育・幼児教育分野においても様々な改革が進みつつあります。チャイルド・リサーチ・ネット (CRN) はECECを「新しい保育・幼児教育」を表すことばと位置付け、ECEC研究を進めてまいります。

※その他、ECCE、ECD等の用語で議論されることもあります。

ECEC特設ページ開設 <http://www.crn.or.jp/ecec/>

チャイルド・リサーチ・ネット (CRN) は、(株)ベネッセコーポレーションの支援のもとに運営されている国際的・学際的なインターネット上の「子ども学」研究所です。



第1回 ECEC研究会レポート

チャイルド・リサーチ・ネット（CRN）は、2013年6月30日（日）に、第1回ECEC研究会を開催しました。当日は、約160名の方にご来場いただきました。今回は、その要旨をご紹介します。

Program

プログラム

テーマ

「日本の保育の課題と展望」

基調講演

「日本の保育の展望と課題
ーグローバル化の中でー」
秋田 喜代美

パネルディスカッション

司会● 榊原 洋一

パネリスト● 秋田 喜代美

一見 真理子

大豆生田 啓友

後藤 憲子



基調講演

データやエビデンスの収集は 保育の質の向上に必要

基調講演者：秋田喜代美

東京大学大学院教育学研究科教授。
専門は保育学、発達心理学、教育心理学、教師教育。



秋田先生が挙げた日本の保育の現状における3つの課題は次の通りです。

- 1 21世紀というグローバル化した知識基盤型社会に向けて、すべての子どもたちが、乳幼児期、そしてその後の人生において幸せな生活を送れる保育を提供できているという保証がないこと
- 2 格差（経済格差、地域格差など）が広がる中、多様なニーズに応じた保育が十分でないこと
- 3 保育の質が向上する過程を保証する事実やエビデンスがないこと

3つの課題について、秋田先生からは、世界各国がECEC分野への投資増大路線にあるにもかかわらず、日本は公費投入が少なく、ECECの重要性が広く理解されるためには、子どもの魅力を語る言説とエビデンスが重要との主張がありました。また、国レベルで保育の質の向上に有効に働く方法を考えるには、データの収集やモニタリングの推進が必要であることが提言されました。

幼保一体化による効率的な制度運営事例として、台湾・韓国のケースが紹介され、5月に一体化したシンガポールの映像が流されるなど、最新の世界の動きも共有されました。また、保育の質を評価するための指標や、その検討にとりかかる国際的な動きとして、オーストラリアやカナダの例が紹介されました。

パネルディスカッション

【課題提起】

質の高い保育とは何か

総合司会：榊原洋一
CRN 所長・お茶の水女子大学大学院教授。
専門は小児神経学、発達障害。



日本におけるECECの5つの課題

- 1 日本の保育・幼稚園教育は、世界の中でどのような位置にあるのか。
- 2 日本の保育の全体像は明らかになっているのか。日本の平均的な保育とは何か。
- 3 保育の質を測定する基準は何か。質の高い保育とは何か。
- 4 どうすれば保育の質が高められるか。理念や精神論ではなく具体的事実が必要。
- 5 保育所と幼稚園で行われている保育内容の本質的な違いは何か。

5つの課題に絡めて、「日本では昔から、今の社会的潮流である『子ども自身が主体的に関わる遊びを中心とした保育』を実践してきたのに、世界に向けて発信できていない。日本は一番先頭を走っていたのに、速すぎて、今では周回遅れで後ろになってしまったのではないか」という専門家の意見が紹介されました。



本レポートの
こちらで買
<http://www>

【パネリストの声】

園の現状のマッピングは非常に重要

●**一見先生より**：エビデンスに基づく制度改革や政策の施行のためには、世界における日本の保育の位置付けを客観的に把握するためのマッピングや、就学前のデータを一元的に取り入れるような行政側の体制が必要です。

パネリスト：一見真理子
国立教育政策研究所総括研究官。専門は比較教育学。
【OECD 保育白書】翻訳チームコーディネーター。



●**大豆生田先生より**：世界の動きから考えても日本はデータを取って保育に活用する必要があり、たとえば最近の運動能力調査の結果を受けた、保育現場の取り組みの変化なども大事なメッセージだと思います。

パネリスト：大豆生田啓友
玉川大学准教授。専門は幼児教育学・保育学・子育て支援。



●**後藤さんより**：保育の質を上げていくために、現場で起こっている問題と、世界的な潮流から見たときの課題をどのように結び付けて考えていくか、ということがとても重要だと改めて感じています。

パネリスト：後藤憲子
ベネッセ教育総合研究所 次世代育成研究室室長。



●**秋田先生より**：自分の園の特質を知るのは大事なことです。その意味で、マッピング(特徴・位置付けの明確化)は非常に重要です。



【会場とのディスカッション】

日本の保育の質を測定するには？

保育を質的に測る困難さについても様々な意見が出ました。保育の多様性に誇りをもって園レベルで質を高めていく姿が大切という立場を秋田先生が話し、保育のスタンダードを語るより、最低基準はふまえながら、さらに園独自の多様な知恵を生かした質の向上が語られるべきとの考えも示されました。また、数値が何%ということだけがエビデンスではなく、子どもに日常的に起きている出来事一つひとつの積み重ねもまたエビデンス構築につながるのではないかと提案もありました。

会場からは、現場の保育者の経験を集めることや、コホート研究から具体的に基準を詰めていくことの提案など様々な話題が提供され、日本の保育の質を測定する基準を探るヒントがたくさん含まれていました。

ECEC 研究会は、今後の展開に向けて、力強い第一歩を踏み出しました。



参加者の声

保育の質についての問題は看護についての問題と共通点がたくさんあると思いました。(助産師)

保育のことを語る、伝えるという中で、(中略)エピソードも含めたこと(情緒的なもの)も、語り口の一つになり得ると感じた。(幼稚園副園長)

海外と保育の質を比べるということに関しては、国レベルの文化や習慣の違いもあると思います。その中で、何を大切にしていかなければならないのか...そのような発信を今後期待したいです。(保育士)

保育を数値化する視点の必要を感じた。(保育所所長)

保育所(民間)で13年勤務し、現在保育士を養成する立場にあり「質の向上」にはとても関心があった。(中略)「質の測定」についても関心がある。今日のお話は私の関心にぴったりの企画でした。(非常勤講師・保健センター心理相談員)

第1回ECEC研究会で出た 要点の整理

データやエビデンス

保育の質の向上

保育の質を語るには、その質を測るための指標が必要。

園現場の課題解決

園現場には、スタンダードな部分と、園独自の多様な部分がある。

今後に向けて

CRNでは、今後「ECEC研究」を主要な研究テーマと位置付けます。幼稚園、保育所の双方の関係者の議論の場をデザインし、グローバルな視点での情報の発信を進めてまいります。



これからのECEC研究活動のご案内

「写真で語る保育・幼児教育の現状」事例収集へのご協力をお願い
～貴園のエピソード・事例を写真で送ってみませんか？～

自然の中で心安らく創作活動

写真の例



動物とのふれあいを通じて命の大切さを学ぶ

CRNでは、ECEC研究の一環として、「写真で語る保育・幼児教育の現状」という新たな企画をスタートいたします。

第1回 ECEC研究会の場でも、幼稚園・保育所の多様性が議題にのぼりました。

今回の企画では、日本の保育・幼児教育のよさをもっと世界に発信していくため、園の個々の事例を物語る写真を数多く収集します。それらを日本語、英語、中国語のWeb上で共有することで、海外の研究者と共に、写真を通して保育の質の議論を活性化させることを目的としています。

そこで、今回の企画に賛同し、写真提供にご協力いただける幼稚園・保育所を募集します。ご協力いただけるようであれば、「園の名称」「所在地」「対象年齢」「園児数」等の基礎情報を明記の上、下記メールアドレス宛にご一報ください。追ってこちらからご連絡させていただきます。

募集締切：9月末まで！

crninfo@crn.or.jp

第2回 ECEC 研究会開催のお知らせ



第9回東アジア子ども学交流プログラムでは、メインテーマにECECを据え、第2回ECEC研究会を開催いたします。

日本、中国の保育・幼児教育の専門家による現状と展望についての講演を予定しています。

■実施要項

日時：2013年10月26-27日 10:00～17:00（両日）

場所：慶應義塾大学 三田キャンパス

参加申し込み方法：CRNのホームページ (<http://www.crn.or.jp>)より、9月20日以降に受け付けを開始します。

CRNの組織概要・運営体制

所長：榎原洋一（お茶の水女子大学大学院教授）／名誉所長：小林登（東京大学名誉教授、国立小児病院名誉院長）／特別顧問：石井威望（東京大学名誉教授）／コーディネーター：劉愛萍 小川淳子（ベネッセ教育総合研究所）所在地：〒206-8686 東京都多摩市落合1-34（株）ベネッセコーポレーション内

チャイルド・リサーチ・ネット (<http://www.crn.or.jp/>) は (株)ベネッセコーポレーションの支援のもとに運営されています。

Benesse®

CRN で 検索



ECEC02